

2018. 1. 31

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★幼児のためのおはなし会

○日時：平成30年2月6日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：幼児

《1月のおはなし会で使った本》

『しゅっぱ一つ!』 山本祐司/脚本・絵 童心社 2010

『ぞうのはな』 堀浩/監修 内山晟/写真撮影 チャイルド本社 2008

『たんたんぼうや』 神沢利子/文 柳生弦一郎/絵 福音館書店 1998

『おでんのゆ』 真珠まりこ/作・絵 ひさかたチャイルド 2008

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

★子ども読書ネットワークフォーラム in 岩国

講演会「絵本の製作秘話と裏話 ～絵本とワークショップ～」 10：00～11：30

講師：スギヤマカナヨ（絵本作家）

「ブックスタートボランティアによるちいさい子のたまのおはなし会」（未就園児とその保護者）13：15～13：45

「えほんのじかんのおはなし会スペシャル（幼児～小学生向け）14：00～16：00

○日時：平成30年3月11日（日） ○会場：岩国市中央図書館

○対象：図書館関係者、学校図書館関係者、読書ボランティア、子ども読書に関心のある人、講演会は中学生以上の方

○定員：講演会100名（要申込み・先着順） ○参加費：無料

○申込み先：岩国市中央図書館（TEL:0827-31-0046 FAX:0827-32-4646）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

＜絵本－乳幼児から＞

『あかまるどれかな？ おやこであそぼ』 しみずだいすけ/作 ポプラ社 2017.12 ¥900

「どれかな？ どれかな？ あかいろどれかな？」 「どれかな？ どれかな？ しかくはどれかな？」 色・形・数・大きさ・量をヒントに指差し遊びをしてみよう。いろいろな質問に答えることで、色や形を覚えることができる知育絵本。ページの端に他の質問例もあり、何通りでも遊ぶことができる。パッチリおめめの付いた形がかわいい、ボードブックの赤ちゃん絵本。

＜絵本－3，4歳から＞

『えがないえほん』 B.J.ノヴァク/さく おおともたけし/やく 早川書房 2017.11 ¥1300

「書いてある言葉はぜんぶ声に出して読むこと」「どんなおどかな音もね」「ぶりぶり～、ぼよよよーん…」このシンプルなルールを守って、大人が子どもに読み聞かせをすると、子ども達は大喜び。そこには「ここにいる子どもは、世界で一番素晴らしい」という、子どもが大人から聞きたい言葉や愛情が込められている。読み聞かせの原点が感じられる文字だけの絵本。

＜絵本－5，6歳から＞

『さあ、なげますよ』 角野栄子/作 山村浩二/絵 文溪堂 2017.12 ¥1500

ボール投げの名人、ノビクンの球はすごい球。あまりに速すぎて誰も相手になってくれない。だからノビクンは、今日もカベを相手に一人投げ。すると家の中から、「私が相手をしてあげるわ」と小さなおばあさんが出てきた。最初まぜんぜんうまくいかなかった2人のキャッチボールだが、だんだん呼吸があってきて…。ノビクンとおばあさんの交流を、温かくユーモラスに描いた絵本。

＜絵本－小学校低学年から＞

『いろのかげらのしま』 イ・ミョンエ/作・絵 生田美保/訳 ポプラ社 2017.11 ¥1400

鳥のぼくが住んでいるのは、海の真ん中に浮かぶ「いろのかげら（プラスチック）のしま」。プラスチックのゴミは、破碎されて海を漂い、マイクロプラスチックになり、海で暮らす動物たちを苦しめている…。淡い色彩の絵と、鳥たちのさびしげな表情が印象に残る。環境問題を考える韓国の絵本。2015年ブラティスラヴァ世界絵本原画展金牌受賞、ポローニャ国際絵本原画展入選作。

＜絵本－小学校中学年から＞

『マンボウひまな日』 たけがみたえ/作 絵本館 2017.11 ¥1300

「貧乏ひまなし」のマンボウが、ひまな日に考えた言葉は「マンボウひまな日」。ことわざの「見ざる聞かざる言わざる」を鯛が言ったら、「見たい聞きたい言いたい」に。「可もなく不可もなく」は「蚊も泣くフカも泣く」に…。木版画作家による、カラフルで力強い木版画が楽しい。ことわざをもじった言葉遊びの絵本。読み聞かせにも向く。

＜読み物－小学校低学年から＞

『ようこそ！へんてこ小学校 おにぎりVSパンの大勝負』 スギヤマカナヨ/作・絵 KADOKAWA 2017.10 ¥1000

ぼくの名前は、大谷とき、あだ名はチョコキ。研究者のお父さんの仕事の都合で、転校も今回で4回目。慣れたもんだとたかをくくっていたが、今回は様子が違う。だって担任はしおむすび先生でクラスメイトは全員おにぎり、運動会は、ランチ小学校と合同で行わ

れるっていうんだから。へんてこ小学校での愉快な物語。まちがいさがしにクイズ、見返しにはおもしろ新聞を掲載。

<読み物—小学校中学年から>

『レイナが島にやってきた!』 長崎夏海/作 いちかわなつこ/絵 理論社 2017.10 ¥1400

たった3人の小4の優愛のクラスに転校生レイナがやってきた。レイナは「家の手伝いがたくさんできる」という自己アピールが認められて島の人の里子になれたという。島の子どもたちが当たり前と思っていることに目を輝かせ、新しい暮らしを頑張っている様子を見て、島の子ども達ほとんどレイナに興味をもっていった。沖永良部島在住の作者による、自然描写が南の島らしい作品。

<読み物—小学校高学年から>

『ジュビリー』 パトリシア・ライリー・ギフ/作 もりうちすみこ/訳 さ・え・ら書房 2017.10 ¥1500

私の名前はジュディス。やっと歩けるようになったところ、母さんは私をコラお婆さんの家の玄関先に置いて、島を出て行った。その時から、私はしゃべることができない。そんな私をコラお婆さんは「ジュビリー（最高の喜び）」と呼び、大切に育ててくれた。しかし、私が小5になった時、母さんからハルお婆さんに、娘に会いたいと連絡が…。『最高の喜び』とは何かを考えさせる作品。

『青がやってきた』 まはら三桃/作 田中寛崇/絵 偕成社 2017.10 ¥900

山口に住む池上秀は、成績優秀、運動神経抜群、バレンタインにはチョコを13個ももらうという、完全無欠の11歳。そんな秀のクラスに突然転入してきた青（はる）は、街で2ヶ月間公演される、サーカス団の一員だった。この青に、完全無欠なはずの秀は、唯一の弱点を見破られてしまうことに…。他に、鹿児島、福岡、大阪、千葉をめぐる「ご当地」連作短編集。作者は山口市在住。

<読み物—中学生から>

『明治ガールズ 富岡製糸場で青春を』 藤井清美/著 KADOKAWA 2017.6 ¥1400

明治の初め。使用人の幸次郎を異性として意識し始めた15歳の英（えい）に、縁談の話が持ち上がる。先延ばしを画策した英は、新しく出来たフランス式の富岡製糸場の工女を志願。信州株代での16人の少女の代表格として英は、人間関係に悩んだり、38人の長州山口勢と張り合ったり、幸次郎への思いを確認したりする中で大人へと成長していく。脚本・演出家による初の時代青春小説。

『ぼくはO・C・ダニエル』 ウェスリー・キング/作 大西味/訳 鈴木出版 2017.10 ¥1600

ぼく、ダニエル13歳。数字にすごいこだわりがあって、寝る前に「儀式」をきちんとしないと「死んじゃう」って思う。人と違うことを親や友達にも隠していたのにサラに見抜かれ、彼女の父の失踪事件に手を貸すことに…。OCD(強迫性障害)に苦しんできた著者の体験に基づいた物語。2017年アメリカ探偵作家クラブエドガー賞児童図書部門受賞。「鈴木出版の児童文学」シリーズ。

『凍てつく海のむこうに』 ルータ・セペティス/作 野沢佳織/訳 岩波書店 2017.10 ¥2100

命がけの避難途上で出会ったリトアニア人の看護婦、絵画の修復をしていた東プロイセンの若者、ポーランド人の15歳の少女、ドイツ人の水兵、4人の若者の視点から、それぞれの抱えている秘密が次第に明かされていく。東プロイセンからの避難民など1万人以上を載せた客船がシバルト海に沈んだ、知られざる海運史上最大の惨事を描く歴史フィクション。2017年カーネギー賞受賞。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『マララのまほうのえんぴつ』 マララ・ユスフザイ/作 キャラスケット/絵 木坂涼/訳 ポプラ社 2017.12 ¥1500

パキスタンの小さな町に暮らす、ごく普通の女の子、マララ。熱心に勉強を続けていたが、ある時から「女は外で働くな、学校へ行かせるな」と脅されるように。このままじゃ何もかわらない。誰かが声をあげなくちゃ。まって…。誰かじゃなくて、私?自分の言葉と行動で、世界を変えていく。史上最年少でノーベル平和賞を受賞した、マララ・ユスフザイの自伝絵本。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『髪がつなく物語』 別司芳子/著 文研出版 2017.11 ¥1300

長く伸ばした髪を寄付する「ヘアドネーション」。集まった髪は、病気などで髪を失ってしまった子どもたちの医療用ウィッグとして使われる。誰でも参加できるこの活動を日本でリードする、2009年誕生のNPO法人「JHD&C（ジャーダック）」。その活動の様子を中心に、「ヘアドネーション」を広報した高校生や、人工毛ウィッグ製作企業の思いも伝える1冊。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『ディベートをやろう!』 全国教室ディベート連盟/監修 PHP 研究所 2017.12 ¥3000

形式にのっとって話し合いを進め、第三者の判定によって勝敗が決まる「ディベート」。その話し合いの特徴や種類、ディベート実施のための準備やマナーなど、初めて取り組む児童にも分かるよう、イラストや写真を用いて、わかりやすく丁寧に解説。討議しやすい論題例も参考になる。小学校高学年国語科の学習で活用できる。「楽しい調べ学習シリーズ」。

<ノンフィクション—中学生から>

『親子で学ぶスマホとネットを安心に使う本 知りたいことが今すぐわかる!』 鈴木朋子/著 技術評論社 2017.11 ¥1280

ITジャーナリストであり、中高生の娘を持つ母親でもある著者が、高校生までの子どもを持つ親と子を対象に、スマホとインターネットを安全に使うためのポイントを、漫画やイラストを使ってわかりやすく教える。ネットのウソ情報や危険なアプリ、SNS&メールやお金のトラブルなどから身を守る方法、マナーや著作権、セキュリティなどについて解説し、対応策を紹介。

<研究書>

『絵本を深く読む』 灰島かり/著 玉川大学出版部 2017.11 ¥2400

子どもの本の翻訳、研究、創作と幅広い仕事を行い、2016年に66歳で亡くなった著者の、「絵本をどう読むか」についての評論をまとめた遺作。森へ行き成長する少年に対して、女の子の場合は…。ポストモダン絵本、ピアトリクス・ポター論、そして、読者に語りかける文体の「絵本サロン」で、新しい「絵本論」を展開する。『日本児童文学』等の連載をもとに加筆、再構成。

『紙芝居百科』 紙芝居文化の会/企画制作 童心社 2017.11 ¥1300

紙芝居の魅力、演じ方、絵本との違い、舞台の役目、創作の仕方など基本的な事柄をわかりやすくレクチャーし、著名人のエッセイを添える。後半は、選り抜かれた「おすすめ紙芝居」を分類・分野別にカラーで紹介し、紙芝居の歴史にも触れる。紙芝居の入門書としても最適。2001年に発足し、全世界に広がっている「紙芝居文化の会」の会報を基に書籍化。